

# 数学演習第二 (演習第7回)

線形：座標, 行列の零空間・行空間・列空間

2023年11月22日

## 要点

### 〈基底によるベクトルの座標〉 (線形教科書 pp. 119–120)

ベクトル空間  $V$  の基底  $\mathcal{B} = (\mathbf{b}_1, \dots, \mathbf{b}_r)$  に対して, 各  $\mathbf{v} \in V$  は  $\mathbf{b}_1, \dots, \mathbf{b}_r$  の1次結合で1通りに表される:

$$\mathbf{v} = c_1 \mathbf{b}_1 + \dots + c_r \mathbf{b}_r = (\mathbf{b}_1, \dots, \mathbf{b}_r) \begin{bmatrix} c_1 \\ \vdots \\ c_r \end{bmatrix}.$$

このとき一意に定まる列ベクトル  $\begin{bmatrix} c_1 \\ \vdots \\ c_r \end{bmatrix} \in \mathbb{R}^r$  を  $\mathbf{v}$  の基底  $\mathcal{B}$  に関する**座標**といい,  $[\mathbf{v}]_{\mathcal{B}}$  で表す.  $V$  が

数ベクトル空間  $\mathbb{R}^n$  (の部分空間) であれば, 座標  $[\mathbf{v}]_{\mathcal{B}}$  を求めるには非同次連立1次方程式

$$\underbrace{\begin{bmatrix} \mathbf{b}_1 & \dots & \mathbf{b}_r \end{bmatrix}}_{n \times r \text{ 行列}} \begin{bmatrix} c_1 \\ \vdots \\ c_r \end{bmatrix} = \mathbf{v}$$

を解けばよい.

### 〈行列の零空間・行空間・列空間〉 (線形教科書 pp. 107, 130, 132)

$$m \times n \text{ 行列 } A = \begin{bmatrix} \mathbf{r}_1 \\ \vdots \\ \mathbf{r}_m \end{bmatrix} = \underbrace{\begin{bmatrix} \mathbf{c}_1 & \dots & \mathbf{c}_n \end{bmatrix}}_{\text{列ベクトル分割}} \text{ に対して,}$$

行ベクトル分割

$A$  の**零空間**  $N(A) := \{\mathbf{x} \in \mathbb{R}^n \mid A\mathbf{x} = \mathbf{0}\}$  (同次連立1次方程式  $A\mathbf{x} = \mathbf{0}$  の解全体が作る  $\mathbb{R}^n$  の部分空間)

$A$  の**行空間**  $R(A) := \langle \mathbf{r}_1, \dots, \mathbf{r}_m \rangle$  ( $n$  次行ベクトル  $\mathbf{r}_1, \dots, \mathbf{r}_m$  で生成される  $\mathbb{R}^n$  の部分空間)

$A$  の**列空間**  $C(A) := \langle \mathbf{c}_1, \dots, \mathbf{c}_n \rangle$  ( $m$  次列ベクトル  $\mathbf{c}_1, \dots, \mathbf{c}_n$  で生成される  $\mathbb{R}^m$  の部分空間)

ただし,  $\mathbb{R}_n$  は  $n$  次行ベクトル全体が作るベクトル空間を表す. このとき, 次が成り立つ.

- $\dim N(A) = n - \text{rank } A$ ,  $\dim R(A) = \dim C(A) = \text{rank } A = \text{rank } {}^t A$ . (教科書 命題 19.2, 19.9)
- $R(A)$  は  $A$  を行基本変形しても変わらない (教科書 補題 19.4) ので, 行基本変形して, 簡約行列の主成分を含む行ベクトルを取れば  $R(A)$  の基底になる.
- 行基本変形を行うと  $C(A)$  は変わってしまうが, 列ベクトルの間に成り立つ1次関係式は保たれるので, 簡約行列の主成分を持つ列に対応する元の  $A$  の列ベクトルを取れば  $C(A)$  の基底になる. 別の方法として,  $R({}^t A)$  の基底を計算し, それらの転置を取ってもよい. これは  $A$  を列基本変形して (列に関する) 簡約行列の主成分を含む列ベクトルを取ることに他ならない.

### 〈共通部分と和空間に関する次元公式〉 (線形教科書 p. 134)

ベクトル空間  $V$  の部分空間  $W_1, W_2$  に対して, 次の等式が成り立つ:

$$\dim(W_1 + W_2) = \dim W_1 + \dim W_2 - \dim(W_1 \cap W_2).$$

**例題 1**  $\mathbb{R}^2$  の基底  $\mathcal{B} = \left( \mathbf{b}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \end{bmatrix}, \mathbf{b}_2 = \begin{bmatrix} 3 \\ 4 \end{bmatrix} \right)$  に対して,  $\mathbf{v} = \begin{bmatrix} -1 \\ 0 \end{bmatrix}$  の基底  $\mathcal{B}$  に関する座標  $[\mathbf{v}]_{\mathcal{B}}$  を求める.

$$[\mathbf{b}_1 \quad \mathbf{b}_2 \quad \mathbf{v}] = \begin{bmatrix} 1 & 3 & -1 \\ 2 & 4 & 0 \end{bmatrix} \rightarrow \begin{bmatrix} 1 & 0 & 2 \\ 0 & 1 & -1 \end{bmatrix}$$

より, 基本変形後の列ベクトルの間の関係式を考えると,  $\mathbf{v} = 2\mathbf{b}_1 - \mathbf{b}_2$  が分かる. よって  $[\mathbf{v}]_{\mathcal{B}} = \begin{bmatrix} 2 \\ -1 \end{bmatrix}$ .

**例題 2**  $A = \begin{bmatrix} 1 & 4 & 7 \\ 2 & -1 & 5 \\ -2 & 3 & -3 \end{bmatrix}$  を行基本変形すると  $\begin{bmatrix} 1 & 0 & 3 \\ 0 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 0 \end{bmatrix}$  ( $A$  の簡約行列) となる. よって,  $N(A)$  の基底の 1 例として  $\left( \begin{bmatrix} -3 \\ -1 \\ 1 \end{bmatrix} \right)$  が取れる. また,  $R(A)$  の基底の 1 例は, 簡約行列の主成分を持つ行を取って,  $([1, 0, 3], [0, 1, 1])$ .  $C(A)$  の基底の 1 例は, 簡約行列の主成分を持つ列に対応する元の列ベクトルを見て  $\left( \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \\ -2 \end{bmatrix}, \begin{bmatrix} 4 \\ -1 \\ 3 \end{bmatrix} \right)$  が取れる.

**【注】** 行ベクトルでは, しばしば成分をカンマで区切って表す (特に数が成分の場合). 例えば, 上では  $[1 \ 0 \ 3]$  と書かずに  $[1, 0, 3]$  と表した.

**例題 3**  $\mathbb{R}^3$  の 2 つの部分空間

$$W_1 = \left\langle \mathbf{a}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ 1 \end{bmatrix}, \mathbf{a}_2 = \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \\ 1 \end{bmatrix} \right\rangle, \quad W_2 = \left\langle \mathbf{b}_1 = \begin{bmatrix} 2 \\ 1 \\ 5 \end{bmatrix}, \mathbf{b}_2 = \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \\ 1 \end{bmatrix} \right\rangle$$

に対する和空間  $W_1 + W_2$  と共通部分  $W_1 \cap W_2$  を考える. 行基本変形により,

$$[\mathbf{a}_1 \quad \mathbf{a}_2 \quad \mathbf{b}_1 \quad \mathbf{b}_2] = \begin{bmatrix} 1 & 0 & 2 & 0 \\ 0 & 1 & 1 & 0 \\ 1 & 1 & 5 & 1 \end{bmatrix} \rightarrow \begin{bmatrix} 1 & 0 & 0 & -1 \\ 0 & 1 & 0 & -\frac{1}{2} \\ 0 & 0 & 1 & \frac{1}{2} \end{bmatrix}.$$

行基本変形によって列ベクトルの間の 1 次関係式や 1 次独立性は保たれるので, 簡約行列を見て  $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{b}_1$  は 1 次独立で,  $W_1 + W_2 = \mathbb{R}^3$  となっていることが分かる ( $(\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{b}_1)$  は  $W_1 + W_2$  の 1 つの基底). また,  $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2$  は 1 次独立で,  $\mathbf{b}_1, \mathbf{b}_2$  も 1 次独立であることが分かる (簡約行列の対応する列ベクトルを見る). よって,  $\dim W_1 = \dim W_2 = 2$  であり, 次元公式から  $\dim(W_1 \cap W_2) = \dim W_1 + \dim W_2 - \dim(W_1 + W_2) = 2 + 2 - 3 = 1$  となる. さらに, 簡約行列から, 非自明な 1 次関係式

$$\mathbf{a}_1 + \frac{1}{2}\mathbf{a}_2 - \frac{1}{2}\mathbf{b}_1 + \mathbf{b}_2 = \mathbf{0} \quad \text{すなわち} \quad 2\mathbf{a}_1 + \mathbf{a}_2 - \mathbf{b}_1 + 2\mathbf{b}_2 = \mathbf{0}$$

が読み取れる. これは  $2\mathbf{a}_1 + \mathbf{a}_2 = \mathbf{b}_1 - 2\mathbf{b}_2 = \begin{bmatrix} 2 \\ 1 \\ 3 \end{bmatrix} \in W_1 \cap W_2$  を意味する.  $\dim(W_1 \cap W_2) = 1$  だったので,

$\left( \begin{bmatrix} 2 \\ 1 \\ 3 \end{bmatrix} \right)$  が  $W_1 \cap W_2$  の基底となる.

**【別法】**  $W_1 \cap W_2$  の基底については次のように考えることもできる.  $W_1 \cap W_2$  の任意のベクトル  $\mathbf{x}$  は  $\mathbf{x} = c_1\mathbf{a}_1 + c_2\mathbf{a}_2 = d_1\mathbf{b}_1 + d_2\mathbf{b}_2$  の形に書ける. このとき,  $c_1\mathbf{a}_1 + c_2\mathbf{a}_2 + (-d_1)\mathbf{b}_1 + (-d_2)\mathbf{b}_2 = \mathbf{0}$  であるから, 上の基本変形から

$\begin{bmatrix} c_1 \\ c_2 \\ -d_1 \\ -d_2 \end{bmatrix} = \frac{t}{2} \begin{bmatrix} 2 \\ 1 \\ -1 \\ 2 \end{bmatrix}$  が得られ,  $2\mathbf{a}_1 + \mathbf{a}_2 (= \mathbf{b}_1 - 2\mathbf{b}_2)$  が  $W_1 \cap W_2$  を生成することが分かる. よって,  $(2\mathbf{a}_1 + \mathbf{a}_2)$  が  $W_1 \cap W_2$  の基底となる. (次元公式は用いていない.)

## 演習問題

1  $\mathbb{R}^3$  の標準基底  $\mathcal{E} = \left( \mathbf{e}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{bmatrix}, \mathbf{e}_2 = \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix}, \mathbf{e}_3 = \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \\ 1 \end{bmatrix} \right)$  および次の2つの基底を考える:

$$\mathcal{A} = \left( \mathbf{a}_1 = \begin{bmatrix} 0 \\ -1 \\ 1 \end{bmatrix}, \mathbf{a}_2 = \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ -1 \end{bmatrix}, \mathbf{a}_3 = \begin{bmatrix} -2 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix} \right), \quad \mathcal{B} = \left( \mathbf{b}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{bmatrix}, \mathbf{b}_2 = \begin{bmatrix} 2 \\ 4 \\ 5 \end{bmatrix}, \mathbf{b}_3 = \begin{bmatrix} 3 \\ 5 \\ 6 \end{bmatrix} \right).$$

(1)  $[\mathbf{a}_1]_{\mathcal{E}}, [\mathbf{a}_1]_{\mathcal{A}}, [\mathbf{a}_1]_{\mathcal{B}}$  を求めよ.

(2)  $\mathbf{v} \in \mathbb{R}^3$  の基底  $\mathcal{B}$  に関する座標  $[\mathbf{v}]_{\mathcal{B}}$  が  $\begin{bmatrix} p \\ q \\ r \end{bmatrix}$  のとき,  $\mathbf{v}$  の基底  $\mathcal{E}$  に関する座標  $[\mathbf{v}]_{\mathcal{E}}$  および基底  $\mathcal{A}$  に関する座標  $[\mathbf{v}]_{\mathcal{A}}$  を求めよ.

2  $\mathbb{R}^3$  の部分空間  $V = \left\langle \mathbf{a}_1 = \begin{bmatrix} 2 \\ 1 \\ -2 \end{bmatrix}, \mathbf{a}_2 = \begin{bmatrix} 1 \\ 4 \\ 1 \end{bmatrix} \right\rangle$  を考えると,  $\mathcal{A} = (\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2)$  は  $V$  の基底である. この

とき,  $\mathbf{b}_1 = \begin{bmatrix} 4 \\ -5 \\ -8 \end{bmatrix}, \mathbf{b}_2 = \begin{bmatrix} -7 \\ 7 \\ 13 \end{bmatrix}$  がともに  $V$  に属することを示し, 基底  $\mathcal{A}$  に関する座標  $[\mathbf{b}_1]_{\mathcal{A}}, [\mathbf{b}_2]_{\mathcal{A}}$  を求めよ.

3  $\mathbb{R}^4$  の部分空間  $W_1, W_2$  を次のように定める:

$$W_1 = \left\{ \begin{bmatrix} x \\ y \\ z \end{bmatrix} \in \mathbb{R}^3 \mid 2x + 3y + z = 0 \right\}, \quad W_2 = \left\{ \begin{bmatrix} a \\ b \\ c \end{bmatrix} \in \mathbb{R}^3 \mid \begin{array}{l} \text{連立1次方程式} \\ \begin{cases} x + 4y + 3z = a \\ 2x + 3y + z = b \\ 3x + 5y + 2z = c \end{cases} \\ \text{が解をもつ} \end{array} \right\}$$

(1)  $W_1$  の基底と次元を求めよ.

(2)  $W_2$  は行列  $A = \begin{bmatrix} 1 & 4 & 3 \\ 2 & 3 & 1 \\ 3 & 5 & 2 \end{bmatrix}$  の列空間となる. この事実に注目して,  $W_2$  の基底と次元を求めよ.

(3) 上で求めた  $W_1, W_2$  の基底に含まれるベクトルから  $W_1 + W_2$  の基底を選び, その次元を求めよ.

(4)  $W_1 \cap W_2$  の基底と次元を求めよ.

4  $\mathbb{R}^4$  の部分空間  $W_1, W_2, W_3$  を次のように定める.

$$W_1 = \left\langle \mathbf{a}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ 1 \\ 2 \end{bmatrix}, \mathbf{a}_2 = \begin{bmatrix} -1 \\ 1 \\ -1 \\ 0 \end{bmatrix} \right\rangle, \quad W_2 = \left\{ \begin{bmatrix} x \\ y \\ z \\ w \end{bmatrix} \in \mathbb{R}^4 \mid \begin{array}{l} 2x + 3y + 3z - 3w = 0 \\ -x - 2y - z + w = 0 \end{array} \right\},$$

$$W_3 = \left\{ \begin{bmatrix} x \\ y \\ z \\ w \end{bmatrix} \in \mathbb{R}^4 \mid 2x + y - 4z + w = 0 \right\}$$

(1)  $W_2$  の基底と次元を求めよ.

(2)  $W_1 + W_2, W_1 \cap W_2$  について, 基底と次元を求めよ.

(3)  $W_2 + W_3, W_2 \cap W_3$  について, 基底と次元を求めよ.

$$\boxed{5} \quad A = \begin{bmatrix} 3 & -5 & -1 & -3 & -9 \\ 1 & 0 & 3 & 1 & 2 \\ 2 & -1 & 4 & 1 & 1 \\ 1 & -1 & 1 & -1 & -1 \end{bmatrix} \text{ とする.}$$

- (1)  $A$  の零空間  $N(A)$ , 行空間  $R(A)$ , 列空間  $C(A)$  について, 基底と次元を求めよ.  
 (2)  ${}^tA$  の零空間  $N({}^tA)$ , 行空間  $R({}^tA)$ , 列空間  $C({}^tA)$  について, 基底と次元を求めよ.

## レポート課題

- 答だけでなく, 計算の過程も書いて下さい. (A4 用紙 1 ~ 2 枚にまとめ pdf ファイルに変換して提出)
- 授業に出席し, レポートを授業翌日までに **WebClass に提出** して「出席」となります.

$\boxed{I}$   $\mathbb{R}^3$  の 2 つの部分空間

$$W_1 = \left\langle \mathbf{a}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{bmatrix}, \mathbf{a}_2 = \begin{bmatrix} 0 \\ -2 \\ 1 \end{bmatrix} \right\rangle, \quad W_2 = \left\langle \mathbf{b}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 4 \\ -1 \end{bmatrix}, \mathbf{b}_2 = \begin{bmatrix} 2 \\ 0 \\ 1 \end{bmatrix} \right\rangle$$

と,  $W_2$  の基底  $\mathcal{B} = \langle \mathbf{b}_1, \mathbf{b}_2 \rangle$  について次の問いに答えよ.

- (1)  $W_1 + W_2$  の 1 つの基底を  $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{b}_1, \mathbf{b}_2$  から選べ. また, その基底を  $\mathcal{A}$  とするとき, 残りのベクトル ( $\in W_1 + W_2$ ) の基底  $\mathcal{A}$  に関する座標を求めよ.  
 (2)  $W_1 \cap W_2$  の 1 つの基底を求めよ. また, その基底をなすベクトル ( $\in W_2$ ) の基底  $\mathcal{B}$  に関する座標を求めよ.

$\boxed{II}$  行列  $A = \begin{bmatrix} 1 & 0 & -1 & 1 & 2 \\ 2 & -1 & -4 & 1 & 4 \\ 1 & 2 & 3 & 1 & 1 \\ 1 & 3 & 5 & 6 & 3 \end{bmatrix}$  を行基本変形により簡約行列まで変形し, それを利用して  $A$  の零空間

$N(A)$ , 行空間  $R(A)$ , 列空間  $C(A)$  のそれぞれについて, 基底と次元を求めよ. ただし, 基底をなすベクトルは整数を成分とするように選べ.